

幹細胞と再生医学

大阪大学大学院医学系研究科・病理学／生命機能研究科・時空生物学
仲野 徹

幹細胞とは自己複製能と分化能をもった未分化な細胞である。我々の体には多くの臓器に幹細胞が存在することや、初期胚から多能性の ES 細胞を樹立できることなどが知られている。そして、このような幹細胞を体外において増幅・制御して移植に用いようという「再生医学」が注目を浴びている。我々の研究室では、血液細胞、生殖細胞、ES 細胞などを対象に、幹細胞の成立基盤を解明し、その未分化性を制御する方法の開発をおこなっている。今回のセミナーでは、自分たちの研究を紹介するだけでなく、ヒト ES 細胞や核移植クローン技術の再生医学における利用など、幹細胞利用における最新の動向と方向性を概説する。